ヒヌマイトトンボ

ヒヌマイトトンボは、昭和 46 年（1971 年）　7月に茨城町宮前地区のヨシ原で、廣瀬 誠（水戸市）、小菅次男（水戸市）両氏によって発見され、翌年に新種として発表されました。
ヒヌマイトトンボの幼虫の生息環境は、涸沼などの汽水湖の水生植物（ヨシ、マコモなど）の群生地が最適とされています。しかし、生息環境であるヨシ群生地の埋め立て等により、その個体数は減少しています。
茨城県では、絶滅の恐れがある動植物リスト（レッドデータブック、平成 12 年発行）において絶滅危惧種とし、茨城町では天然記念物に指定しています。

写真提供：茨城県自然博物館

ヒヌマイトトンボのメス

体長は、29mmほどで、未成熟のメスは全体がオレンジ色ですが、成熟すると、くすんだ緑褐色に変化します。

写真提供：茨城県自然博物館

ヒヌマイトトンボのオス

体長は、28mmほどで、成熟したオスは、黄緑色の鮮やかな眼後紋（がんこうもん）が４個あり、腹部各節には黄緑色の輪があります。

写真提供：茨城県自然博物館

ヒヌマイトトンボの幼虫

体長は、10mmほどで、３本の尾さい（尾の先の部分）は細長く、鋭く伸びて５mm 程度、複眼は横に突き出ています。汽水中のヨシなどの植物の間に暮らしています。

涸沼の野鳥類

涸沼では水辺を好む野鳥がたくさん生息し、スズガモや希少種のオオセッカやハイイロチュウヒも飛来することなどから、2015年に「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」に登録されました。

写真提供：清水　道雄 氏

スズガモ　カモ科

涸沼では冬季に数千羽以上見ることができます。

和名の「スズ」は、飛翔時の羽音が金属的な鈴の音に似ていることから由来しています。

写真提供：海野　文美子 氏

オオセッカ　センニュウ科

日本の数カ所他、中国東北部の狭い地域に棲息するだけの世界的に見ても希少種です。

涸沼では個体数は少ないですが、春～夏に見ることができ、ヨシの高さが２ｍを越えるような場所を好みます。

写真提供：清水　道雄 氏

ミサゴ　ミサゴ科

涸沼では一年中見ることができ、魚を見つけると急降下し半身を水につかり、ダイナミックに採餌します。

写真提供：清水　道雄 氏

ハイイロチュウヒ　タカ科

涸沼では、11～３月に飛来しますが、個体数は年々減少しています。獲物を狙う際は、宙返りなどアクロバットな動きを見せます。

涸沼の魚介類

関東地方最大の汽水湖である涸沼では、多種の魚介類が生息し、漁業や釣りなどで利用され、地域の特産物にもなっています。

写真提供：茨城県水産試験場内水面支場

ヤマトシジミ　殻長　2～5cm

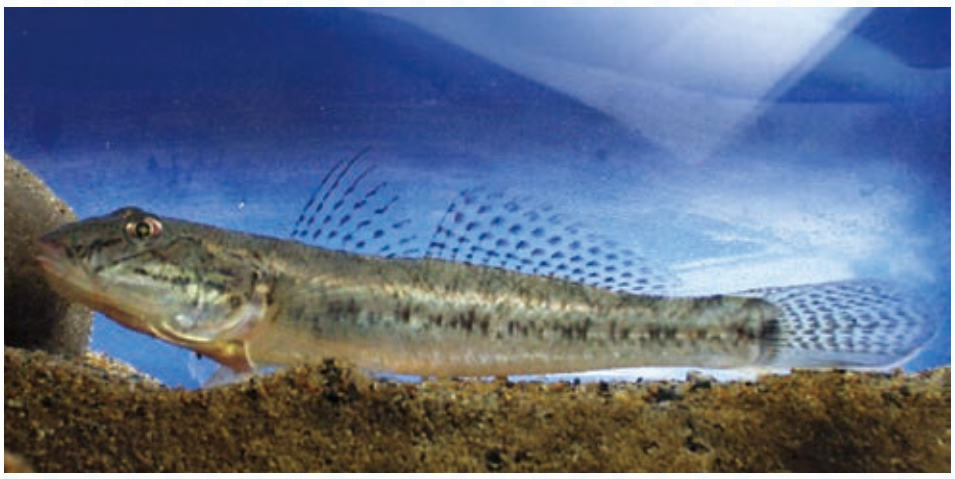
ヤマトシジミは汽水域に生息するシジミです。茨城県内では主に涸沼・涸沼川で漁獲され、涸沼の特産品として親しまれています。涸沼では、地元漁協により卵から稚貝を育てて放流する取り組みが行われています。

写真提供：茨城県水産試験場内水面支場

ニホンウナギ　体長　50～100cm

稚魚のシラスウナギが河川をさかのぼり、汽水から淡水の流域で成長します。

全国的に天然ウナギが減少する中で、涸沼は貴重な生息地となっています。涸沼では、たかっぽ（竹筒）などの漁法で漁獲されます。

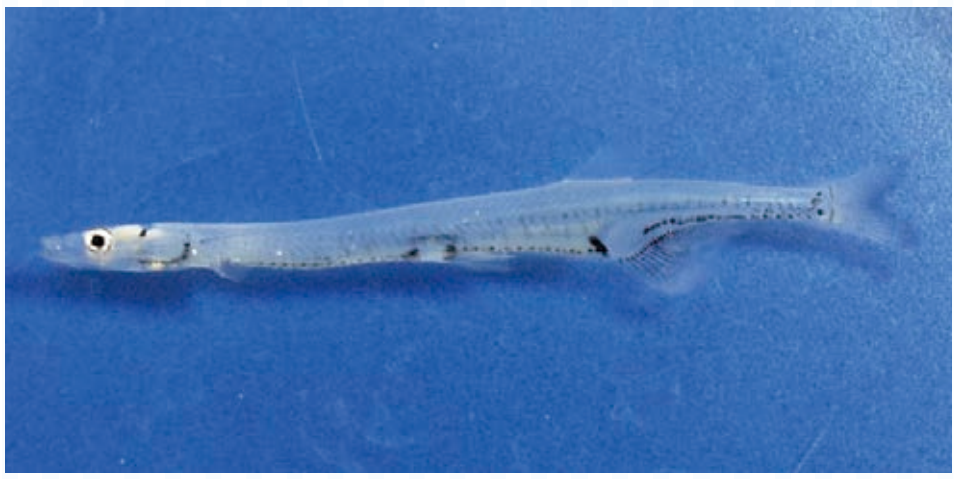


写真提供：茨城県水産試験場内水面支場

マハゼ　体長　13～25cm

海岸近くや河口から汽水域に生息しています。砂や泥底の環境を好み、肉食でゴカイ類や甲殻類を好んで捕食します。

釣り初心者にも人気の魚で、涸沼には７～10月にかけて多くの釣り人が訪れます。



写真提供：茨城県水産試験場内水面支場

シラウオ　体長　5～10cm

茨城県内では霞ヶ浦・北浦と涸沼に生息します。無色透明の美しい外見のまま成体まで成長し、１年で一生を終えます。涸沼では秋から冬にかけて刺網などで漁獲されます。

涸沼の植物

水辺の植物は、湖岸がコンクリート化され、以前より少なくなりましたが、ヨシ（アシ）、ガマ類、マコモ、サンカクイなどは普通に見られます。一方、外来種のオニウシノケグサ・メリケンカルカヤ・セイタカアワダチソウなどは、多くみられるようになりました。

また、沈水植物のエビモ・トリゲモなどはほとんど見られなくなりました。一方、干拓地や休耕田となっている湿地にはタコノアシなどの絶滅危惧植物が見られます。

写真提供：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

アイアシ　イネ科

涸沼では涸沼川の那珂川合流部から涸沼の湖岸に点在している。葉は一見ヨシに似ているが、花期は初夏で、果穂は明らかに異なります。

茨城県では、絶滅危惧ⅠB類に指定されています。

写真提供：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

ヨシ（アシ）　イネ科

涸沼の湖岸で一番目立つ植物です。群生地は以前より減少しましたが、景観ばかりでなく、湖沼の水質浄化や魚類・鳥類、特にヒヌマイトトンボなどの多くの生き物の棲みかとなっています。

写真提供：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

ヒメガマ　ガマ科

高さ1.5～2mに達する大型の多年草。

日本全土の湖沼や河川の水辺に分布し、常時水のある所に生育しています。

涸沼では、湖岸の水中に点在しています。

写真提供：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

タコノアシ　タコノアシ科

名前の由来は果実が茹でたタコの足のように見えるところから命名されました。

環境省及び茨城県では、準絶滅危惧種に指定されています。